

事務事業名		国際交流協会運営事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業							
政策体系	政策名	相互に理解し、尊重し合う地域社会の実現				事業期間		予算科目							
	施策名	地域間交流の推進													
	基本事業名	国際交流の推進				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 5 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		会計	款	項	目	事業			
根拠法令															
所属	部課名	企画政策部企画調整課				全体計画(※期間限定複数年度のみ)									
	課長名	志田 努													
	係 名	地域交流係	電話	0192-27-3111											
	担当者	猪股 大貴	内線	216											
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												総投入量			
市民レベルでの国際交流活動や、在住外国人への日本語学習支援を行っている大船渡市国際交流協会の運営を支援するため、事務局を当課(平成23年度までは活力推進課)内に置き、職員2人で事務処理等を行っている。業務は、総会資料等の作成及び理事会・総会の開催、国際交流を目的とした各種事業の企画・事業運営・同協会の会計事務など。 協会の主な収入は、個人会員及び団体会員からの会費である。事業費の内訳は、交流会や講演会開催などの経費、にほんごくらぶや中国語サークルなどの活動に対する補助、情報紙の購入などが主である。 (長年事業への会員の参画が少なく、一部の役員と事務局(市職員2人)とで実施してきた現状あり、平成16年頃から組織活性化及び事務局の民間移管等の話が出ていた中、平成23年3月の震災により、実質的に休眠状態。)												事業費	人件費	国庫支出金	
														都道府県支出金	
														地方債	
														その他	
														一般財源	
														事業費計 (A)	0
人件費	正規職員従事人数														
	延べ業務時間														
	人件費計 (B)	0													
	トータルコスト(A)+(B)	0													

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) 気仙地域の在住外国人等住民交流を目的とした「ワン・ワールド・フェスタinけせん」を、岩手県国際交流協会、陸前高田市国際交流協会等と共催で開催した。					⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)				
					名称				単位
					ア	国際交流協会の理事会及び総会の開催回数			回
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 三役協議や理事会において話し合いの機会を設けながら、組織の活性化及び事務局の民間移管等、今後の組織の運営方針を見直す。					イ				
					ウ				
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ア) 大船渡市国際交流協会 イ) 市民					⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)				
					名称				単位
					カ	国際交流協会会員数			人
					キ	人口			人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ア) 円滑に事業運営を行う。 イ) 国際理解を深める。外国人と交流する。					ク				
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 交流して異文化を理解して共生できる。					⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)				
					名称				単位
					サ	国際交流イベント等延べ参加者数			人
					シ				
					ス				
(2) 総事業費・指標等の推移									
		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円						
	人件費	事業費計 (A)	千 円	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	2	2	2	2		
		延べ業務時間	時 間	40	40	40	40		
		人件費計 (B)	千 円	160	160	160	160	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	160	160	160	160	0	0
⑤活動指標	ア	回	1	2	0	2	—	—	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	人	43	43	43	43	—	—	
	キ	人	39,376	39,117	38,871	38,871	—	—	
	ク								
⑦成果指標	サ	人	9	12	100	0	—	—	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0354	事務事業名	国際交流協会運営事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
平成4年8月に、市とスペインのパロス・デ・ラ・フロンテラ市が姉妹都市提携を行ったことをきっかけに、地域に根ざした特色ある国際交流を推進するため、市民レベルの推進母体として大船渡市国際交流協会の発足が必要となった。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
大船渡市国際交流協会の事業開始当初は、パロス・デ・ラ・フロンテラ市との姉妹都市提携が行われて間もないこともあり、スペインに関する各種イベント等を開催するなど活発な活動が行われ、市から1,000千円を補助していた。また、同協会の常任理事は当時の市助役となっていた。その後、姉妹都市交流は両都市間の距離が離れていることや言語の問題等により徐々に停滞していき、協会活動の中心は日常の交流機会が持ちやすい市内の水産会社で働く中国の水産加工技術研修生等との交流に移った。平成9年度以降は、協会役員への市からの就任はなく、また事業の縮小に伴い平成22年度からは市の補助金は打ち切っている。近年は、新規会員の加入が無く退会する会員が続き、会員数は年々減少している。交流事業については、参加する会員が固定化している状況だったが、震災後は会員の多数が被災したことなどから交流活動を休止し、会員が主体的に活動する組織体制について理事会を開催するなど見直しを行っている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
平成24年度に大船渡市国際交流協会全会員を対象として実施した「組織体制に関するアンケート」によると、回答の回収率が25%と極めて低調だった中で、87.5%が「大船渡市国際交流協会は必要」としながら、「組織体制・運営方針を抜本的に見直した方がよい」、「事務局を民間団体等に移管した方よい」との回答が合わせて55.5%あった。一方で、「現状の組織体制でよい」が44.4%との結果であった。アンケートの自由記述の一つに、「アンケートの結果、協会会員に何の意欲も感じられなければ、当面活動を休止し対策を検討するべき」との意見もあった。			

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 結びついている ⇒【理由】 大船渡市国際交流協会が機能していない。
	② 公共関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 妥当である ⇒【理由】 早期に、市民主導の協会運営に移行できる環境整備を図る必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 市民レベルでの国際交流活動を活発にするには核となる推進母体が必要であることから、対象・意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 他の国際交流関係団体との連携を図ることにより、成果向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☒ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 影響有 ⇒【その内容】 震災後3年あまり活動を休止しているが何ら影響は無い。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 市内のロータリークラブやライオンズクラブなどが国際交流分野を担っている。また、理事の中には、陸前高田市国際交流協会との統合を画策する動きもある。 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 平成22年以降現在、協会の活動が停滞もしくは近年にあつては休止していることから、市補助金の持ち出しはない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 事務局の民間移管等により人件費の削減余地がある。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 これまで、協会会員の年会費を個人会員3,000円、団体会員10,000円と定めて協会財源の全てを会費でまかなってきたことから、受益者負担としては公平である。(平成23年度、震災以降は、活動を休止していることから、会費を徴収していない。)

事務事業ID	0354	事務事業名	国際交流協会運営事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 震災以前から、国際交流事業へ関与する大船渡市国際交流協会会員が固定化されていたところ、震災で被災した会員も多く国際交流事業を実施できる状況になかったことから、震災後は交流事業を休止している。平成25年12月に、イベント会場を市内地区公民館としたことから、県協会、陸前高田市国際交流協会等からの要請に答え当協会も共催して国際交流イベントを開催した。事業運営への参画は、理事数名であった。									
① 目的妥当性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☒ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 会員アンケートや理事の意見を総合的にみると、解散あるいは陸前高田市国際交流協会との合併が上がっている。(但し、現会長の寺澤氏は、現状維持の意向のようです。)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	●		×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果	(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	企画政策部企画調整課長	志田 努

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 国際交流の推進は、市総合計画の施策の一つとして政策体系に位置付けられている。国際交流は、行政側からの押し付けのような形で進めると、長続きしない傾向にある。民間主体の体制を構築することが急務と考える。 会員個々の積極性を引き出すような取組により、国際交流活動の充実が図られるものと考えられる。								
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 会員主導の協会運営に向けた体制などが整備されることにより、活発な活動が期待される。事務局の民間移管について継続して検討する必要がある。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	●		×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
